

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
17	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol drinking and total cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence among the Japanese population. アルコール摂取と全癌リスク：日本人集団における疫学研究の systematic review	
<b>執筆者</b> Inoue M, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Jpn J Clin Oncol. 2007 Sep;37(9):692-700.	
<b>キーワード</b> 疫学・予防、全癌、アルコール摂取、日本、systematic review (系統的評価)	
<b>要旨</b>  <b>目的：</b> 日本人におけるアルコール摂取と全癌リスクとの関係を評価するために疫学研究の systematic review を行った。	
<b>方法：</b> PubMed 検索による MEDLINE データベースおよび医学中央雑誌 (医中誌) データベースに加え補助的に手動検索を行った。証拠の確からしさ、関連指標の強さ、国際がん研究機関 (International Agency for Research on Cancer) により以前評価された生物学的妥当性の度合いによって関連の評価を行った。	
<b>結果：</b> 確認されたコホート研究 8 つのうち、6 つ(そのうち 3 つが対象者に女性を含む)を評価の対象とした。男性においては 6 つの研究の全てでアルコール摂取と全癌の間に弱～中等度の正の関連を認めた。軽度飲酒は全癌の危険にほぼ影響を与えなかったのに対し、大量飲酒(アルコール摂取 46～69 グラム/日)は対象日本人集団の全癌リスクのほとんどに寄与していた。しかしながら女性においては 3 つの研究のいずれもアルコールと全癌との関連はないと報告していた。	
<b>結論：</b> アルコール摂取が全癌の危険性を高めるとする強い証拠が認められた。とくに男性の大量飲酒者でこの関連が明らかであった。	